# リード芦屋新聞

発行元
芦屋市立
市民活動
センター
リードあしや

記事
兵庫県立
芦屋高等学校

# 可能性感じた市民力

２０２３年５月、芦屋市長に髙島崚輔さんが就いた。２６歳での市長就任は史上最年少で、その手腕に全国的から注目が集まる。力を入れて取り組むことや市長を志した理由などについて高校生記者がインタビューした。４回に分けて掲載する。

## 髙島市長にインタビュー

―芦屋市のどのあたりに可能性を感じたのですか？

「幅広い世代で自分のまちに関心を持っている人が多いところです。対話集会などでも、鋭い質問が多くて。芦屋が好きだからこそ出てくる質問なのかなと思いました。市民病院で人間ドックの担当の人に聞くと、学会で発表された内容について患者さんに聞かれたことがあるとのことでした。いろいろなことに興味、関心を持っている市民が多い、と先生もびっくりしていました」

## 進む少子高齢化「解決策探る」

―芦屋の魅力を教えてください。

「市民力の高さです。市長になり、あらためて市民生活を支えてくださる市民の多さを実感しました。例えば保護司。刑務所から出てきた人の社会復帰をサポートする方々です。それをほぼボランティアで何十年と続けている。自分たちのまちのために活動している人がたくさんいらっしゃる。そういう人たちのおかげでまちが成り立っているんだと実感しています」

―芦屋市の今後の課題や改善点は何でしょうか。

「便利なまちですが、出生率が低下し、少子高齢化が進んでいます。残念なことに阪神間でも先頭のほうを走っている状態で、その解決策を見つけるのが大きな課題です」

（写真は初登庁し、あいさつをする髙島市長）

## デジタル化「選択肢」増やす

### 市民の困りごとに対応

―高齢者が多い中でデジタル化をどのようにして進めますか。

「デジタル化は、選択肢を増やすことでもあると思います。つまり、何でも紙をやめてデジタルにするのではなく、選択肢としてデジタルがあり、それを使うと便利なので、やりませんか、という形が大事だと思います。スマホ講座などでデジタルに触れる機会を増やし、意外と便利だと理解してもらえればと思います。紙でないと嫌だと思う人もいれば、デジタルがいいと思う人もいます。市役所が開いている時間に来られず、困っている人もいます。困っている人の声を反映できるように選択肢を増やすことが大切だと思っています」